

[曲名] Serenata alla Luna

月へのセレナータ

[曲種]

[作曲者] Giovanni Tarditi

ジョバンニ・タルディティ

[編曲者] Carlo Graziani-Walter

カルロ・グラツィアーニ・ワルテル

作者は1857年3月10日イタリアAcquiに生まれ、1935年9月19日ローマに逝いた管弦楽及び吹奏楽指揮者で作曲家。

フィレンツェで軍楽隊長として著名であったMabelliniと共に学び、1902年より約30年間第一連隊附軍楽隊の指揮者をつとめた。

そしてその楽団を率いてヨーロッパ、北米に演奏旅行して大好評を博した。

吹奏楽法、トランペット信号音形、其他数種の主として管、打楽器用の音楽用具の考案が著名で、作品としては19のオペレッタ（モンテ・カルロ1897年、食人種の島1925年が著名）吹奏楽の為の交響曲、舞踊曲、行進曲、讃歌等約400曲がある。

マンドリン合奏曲も頗る多く、東洋風舞曲、魅惑的な微笑、ミラフィオリ・ミヌエット、謝肉祭の騒ぎ、不粋な月、歓喜等判明しているだけでも十数曲を数えるが

作品はいづれも簡明直截そのものずばりの観があり極めて親しみ易い。

本曲月へのセレナータは、Graziani-Walterの編曲になっているが、他の楽器によるよりはむしろマンドリンに適わしい曲に思われるものが多い。

明治38年日露戦争に於ける日本の勝利は世界の耳目を聳動せしめたものとみえて、この頃のイタリアの作品には之に題材するものが非常に多く、

本作者も勇敢な日本海軍に贈った日本海軍という行進曲がある。

1969年11月15日発行

イタリアのマンドリンアンサンブル佳曲百曲集第二集より